

人と自然と文化にやさしい地域づくり

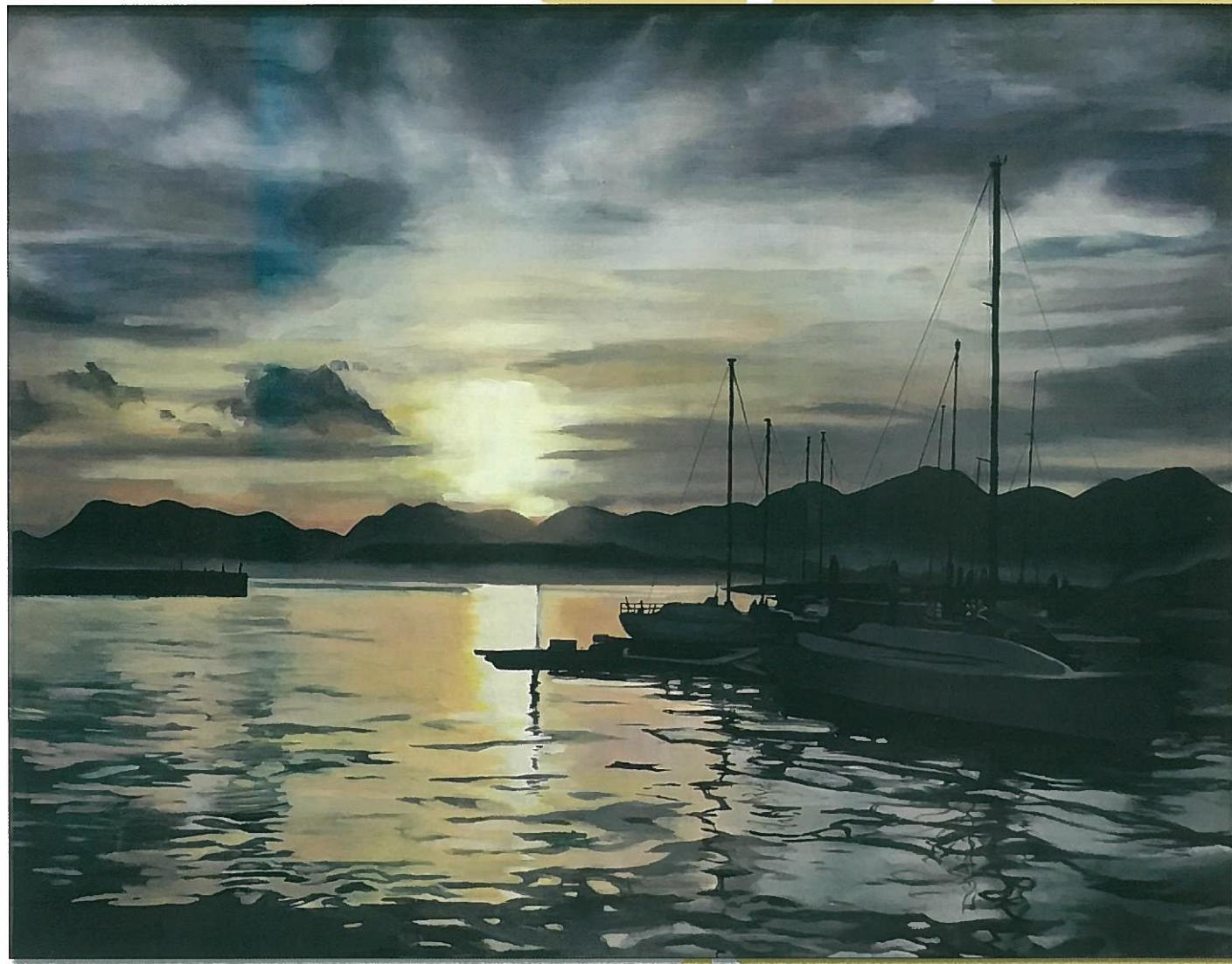
# 山口県教育

*Education of the Yamaguchi prefecture*

明日を拓く—成果を検証する—

3

令和3年 No.1309



## ■卒業式に込める思い

宇部市立琴芝小学校  
光市立大和中学校

## ■ありがとうわが学校

周防大島町立油田小学校  
美祢市立重安小学校  
下関市立豊田中小学校  
周防大島町立久賀中学校  
周防大島町立東和中学校  
周防大島町立安下庄中学校

## ■キャリア教育の推進

山口市立生雲小学校

## ■地域活性化活動助成事業

柳井市立余田小学校  
周南市立須磨小学校

校長  
校長  
安平  
佐々木幸治

6年  
6年  
6年  
3年  
3年  
3年

濱田  
利重  
安田  
岡田  
大谷  
柏谷

斎  
絵里  
余花  
高史  
百花  
桜

校長  
長岡

校長  
校長  
廣池  
坂井

康子  
竹俊

令和元年度 第72回山口県学校美術展 推奨作品

「早起き」

山口県立下関中等教育学校 4回生（受賞時） 福住 友萌

ふくすみ ともえ

あなたの  
アクションは…

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない美しいやまぐち

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



# 卒業式に込める思い

## 「出会い」「挑戦」そして「感謝」



宇部市立琴芝小学校

校長 安 平 秀 行



琴芝小教育の原点と最新機器、ペッパー

本校は宇部市中心部の人口急増に伴い、昭和33年に新たに開校し、平成7年に現在の校舎に建て替わった。玄関が2階にあるモダンな造りである。赴任当初玄関に入り最初に出迎えてくれたのが、人型ロボット・ペッパーである。プログラミング教育の推進モデル校を象徴するものであった。試行錯誤しながら新しい教育に挑戦する教職員や、その背中を見ながら主体的に学ぶ子どもたちの姿を、2年間、目の当たりにしてきた。また、ペッパーの奥の壁は掲示板になつており、その上部に約20年前の子どもたちと教職員の手で製作された陶器製の扁額があつた（左写真）。それには「この校舎は子どもの幸せをつくり出すところ」という素敵な言葉が書かれていた。初代校長が開校当時、琴芝小教育への思いを込めてつくられた言葉である。子どもたちのために日々

「チーム琴芝」で取り組んでいる教職員の姿に、そして多くの人々に支えられ素直にすくすくと育つてこられる子どもたちの姿に、開校当時の思いが今も脈々と受け継がれています。毎年2年間でもある。琴芝小学校で子どもたちとともに卒業できることを幸せに思う。

**挑戦**  
「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」私の好きな言葉の一つである。今年度は特にこの言葉の重みを感じる1年であった。コロナ禍の中、これまで当たり前にできていた教育活動ができなくなつた。運動会や修学旅行、卒業式など職員

**出会い**  
「人の世の幸せは、人と人が会うことからはじまる」  
（相田みつを）

私が今日あるのは、多くの出会いから縁が広がり、絆が深まり、そのおかげでたくさんの人に支えられ助けられてきたからである。歳を重ねるたびに「縁の不思議さ」「人とのつながりの有難さ」「出会いの大切さ」をより強く感じるようになつた。しかし、昨年の1月以来、新型コロナウイルス感染症によつて、大切な「人とのつながり」が制限されてきた。私たち大人以上に、子どもたちに及ぼす影響は計り知れないものがある。

友だち、先生、地域のおじちゃん、おばちゃんなどもたちは人と関わりながら成長し、社会性を身につける。それが「三密回避」によつて制限されてきたのである。これから成長していく子どもたちにとってなくてはならない「密」である。それゆえ、子どもたちにはこれから先の一つひとつのお出会いを大切にしてほしいと願う。



モダンな校舎

これからの予測困難な時代を生きる子どもたち。  
「竹の如く 強くしなやかに」成長してほしいと願う。



コロナ禍での卒業式（令和元年度）

室では何度も何度も議論した。その時に常に念頭に置いていたのは「活動中止ではなく、どうしたらできるか」ということである。ぎりぎりまで話し合いでながら、本校だからこそできる最善を考え、始めたのではないかと思つたのではないかと思つて。実施に至るまでの私たちの苦労は、少なからず子どもたちにも伝わつていいと願う。「まずやつてみる」という気持ちで何事にも挑戦してほしい。実施に至るまでの私自身、この執筆を依頼されたのも何かの縁。おかげで、自分自身の教職生活を振り返り、子どもたちに伝えたい最後の言葉を考え、まとめることができた。このご縁に感謝である。子どもたちへ贈るこの三つの言葉は、実は自分自身に向けた言葉である。

## 感謝

「俺が俺がの『我』を捨てて、おかげおかげの『下』で生きよ」今は亡き恩師からいただいた言葉である。

今自分がここにいるのはたくさんの人のおかげである。家族、友だち、先生、そして地域の方々。これまで関わつた全ての人のおかげで今があるということをいつまでも忘れずにいてほしいと願う。私自身、この執筆を依頼されたのも何かの縁。おかげで、自分自身の教職生活を振り返り、子どもたちに伝えたい最後の言葉を考え、まとめることができた。このご縁に感謝である。子どもたちへ贈るこの三つの言葉は、実は自分自身に向けた言葉である。

# 大和つ子の未来

## 百花繚乱たれ



光市立大和中学校  
校長 佐々木 幸治

### 自然・人・歴史と伝統に護られて

校歌が「石城嶺の緑と深く緑と深く」の一節から始まる本校は、古代の山城の石城山の麓、傍の清流田布施川にカワセミが颯爽と舞う自然豊かな環境に恵まれ、今年で開校から74年目を迎える。地域の方々は、常にあたたかく子どもたちの育ちを見守つてくださり、学校教育の様々な取組に格別のご支援をいただいている。4つの小学校から集う子どもたちは、純朴で素直、何事にも前向きに挑み続ける気質である。生徒会活動の自治機能は高く、平成19年度の生徒会による『大きな和宣言』は、本校生徒の誇りであり、大和中生徒の生活信条となっている。自然、人、歴史と伝統は、「大和を愛し、未来に羽ばたく大和つ子」の糧であり、本校の護りである。

**菊の栽培と子どもたちの成長**

本校では、コミュニティ・スクールの取組として大菊の3本仕立ての栽培を行っている。校区内に在住の匠、河村光歲氏のご指導で、毎年見事な開花を迎える。月には「大菊花展」と称し1か月間校内を開放している。



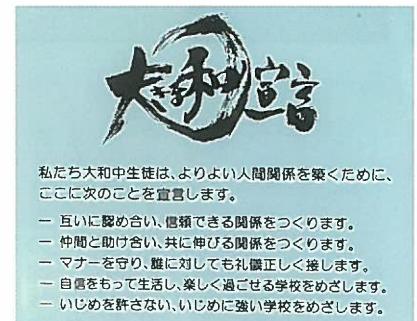
6～8月、根を張り水や養分を取り入れながら、菊がその丈を天に向かって伸ばす様は、授業や生徒会活動、地域での体験活動を通して成長し続ける子どもたちである。その陰に、先生方や地域の方々が、必要な時に必要な内容を適切に与え、時には厳しく鍛え、しかしこれでも温かく見守りながら育てる営みがある。7月に枝分かれする芽の中から3枝を選んで誘引し、9号鉢へと最後の移植をうけての更なる成長は、行事や部活動で奮闘を続ける子どもたちの様である。毎日欠かさずに交代で灌水や施肥を行うことにより、猛暑に耐え強靭な茎と分厚い葉をまとい、開花に備える。10月、枝からどんどん出る幾多の蕾から1つだけを選び大輪の花へと仕上げる。選ばれた蕾は、切り

部を、4小学校と各地区コミュニティセンターに展示し、地域の方々にも楽しんでいただいている。小学校に展示で訪れた時に、居合わせた小学生がその大きさに驚き、菊と背比べをする姿に思わず笑みがこぼれる。この菊の栽培は、まるで子どもたちが育つ過程や未来に備える姿に、私には重なつて映る。

4月末、親の株から育つ10cmほどの細い新芽を挿し木する作業から、育成が始まる。挿し木したての新芽は、まさに新入生の姿。すぐには仲良くなれず、しかし授業や部活動は始まり、地域での体験学習などに無我夢中で取り組み、落ち着いた毎日を送ることがで起きるようになる。少しづつではあるが着実に大和中に根を張りながら生活する姿が、刺し芽から育った苗が3号鉢、5号鉢へと移植される様と重なる。



11月には「大和音楽発表会」が開催され、音楽部の生徒たちが歌と楽器演奏で大和の文化を表現する。また、音楽部の生徒たちが歌と楽器演奏で大和の文化を表現する。



生徒会による『大きな和宣言』



私たち大和生徒は、よりよい人間関係を築くために、ここに次のことを宣言します。

- 一 直に認め合い、信頼できる関係をつくります。
- 二 仲間と助け合い、共に伸びる関係をつくります。
- 三 マナーを守り、誰に対しても礼儀正しく接します。
- 四 自信をもって生活し、楽しく過ごせる学校をめざします。
- 五 いじめを許さない、いじめに強い学校をめざします。

頑張ろうとさらに成長する。学校行事でリーダーが手腕を發揮し、それに応え支える全校生徒の様である。やがてほぼ全ての鉢で3つの大輪が見事に咲き揃う景観は、百花繚乱である。大輪の花が輝くだけでなく、花を支える茎や葉の一枚ずつが、自分で育てた子どもの姿に映る。時と同じくして、伝統の全校合唱での見事な調和が子どもたちに心の充足感をもたらして、最高潮を迎える。12月、役目を終えた花の始末は次の代への準備である。時にはマイナス5度を観測する厳寒に耐え続け、4月から新たな歩みに向か、「備える」時期だ。3年生は、再び百花繚乱となることを4月以降の後輩たち委ね、自分ちは次のステージでの開花をめざす。

大和を築立つ子どもたちが、これから迎える人生の百花繚乱はまだまだ先。色も姿も異なるだろうが、それぞれに素晴らしい生涯になると願つてやまない。この大和の里で備えた生き抜く力とふる里大和を愛する心を糧として、それぞれの道でより確かな歩みを進めることを願う。どうぞ、このままお導きください。これまでお導きくださいた本当に多くの方々に心から感謝し、やまと学園・光市ならびに本県教育の更なるご発展を祈念申し上げ、我が教職人生の節目を迎える。

# ありがとうわが学校



## 青空にだかれた自まんの学校 油田小学校

周防大島町立油田小学校

6年 濱田 斎



坂道を登つたら、ぼくの油田小学校があります。全校児童が7名しかいない小さな学校ですが、人数が少ないからこそ仲良く、協力しているいろいろなことに挑戦してきました。

油田小学校には、周防大島の自然を生かし、地域の方と一緒にを行う素晴らしい行事がたくさんあります。竹馬やお手玉など昔の遊びを体验したクラブ活動、季節の花を使つていけ花を行つた花\*花クラブ、保育園や地域の方々と一緒に取り組み盛り上がりがつた運動会、いその生き物の観察やスイカ割りをした海の集会、郷土料理のぶり飯を作つたみのりの集会、たくさんの声援を受けて全力を出し切つた校内持久走大会、地域の方々に指導してもらひながら作つたしめ縄作り、草引きやてつ果をして育てたみかんの栽培活動、油宇地区の家々を亥の子唄を歌いながら回つた亥の子体验など、心に残る行事ばかりです。どの行事も、みんなで計画して成功するよう精いっぱいがんばりました。失敗したこともありましたが、さみしいです。でも、地域の方々、先生方、友だち、そして校舎で過ごした数々の思い出をぼくはずつと忘

れません。みんなと遊んだり、笑つたりした毎日が楽しかつたです。こんな素敵な小学校で6年間過ごせて本当に幸せでした。これも支えてくれた地域の方々や先生のおかげです。ありがとうございました。この感謝の気持ちを忘れずがんばつていきたいです。

## ありがとう重安小学校

美祢市立重安小学校

6年 利重 紘里



私が通つている重安小学校は、地域との交流がとてもある学校です。重安小では、一昨年から「日本一幸せな学校」にしていこうと、地域の方やお年寄りの方と一緒に学んだり、遊んだりしました。また、「どうしたら日本一の学校になれるか」を話し合いました。そして、地域の方が気軽に学校に来ることができるように、空き教室をリフォームしました。「しあわせスマイルホーム」をつくり、地域の方と笑顔の交流を始めました。

今年度は、コロナの影響で、こうした交流はできませんでしたが、「重小フェスタ」という学習発表会では、たくさん地域の方が来てくださいました。そして、みんなで人文字の「幸せ」をつくり、写真に撮ることができました。とてもうれしかつたです。また、コロナで、あまり地域の人たちが学校に来ていただけない中、なんとかして関わりが保てるよう、私たち子どもも知恵を出しました。「メッセージノート」をつくり、地域の方とメッセージを交換できるようにしました。



学校と地域みんなでつくった「幸」

6年間、重安小の思い出がたくさんあります。3月閉校し、私は4月から中学生になります。これまで支えてくださった方への感謝を忘れず、これからもがんばります。ありがとうございます、重安小学校。



## 閉校までに作り上げた思い

下関市立豊田中小学校  
6年 安田 奈花

私が6年間通つた豊田中小学校が今年度で閉校します。6年間の思い出がたくさんつまつた学校がなくなってしまうのはとてもさびしいけれど、最後の卒業生として、立派に卒業したいと思っています。

豊田中小学校は全校児童21人の小さな学校です。緑に囲まれた自然いっぱいの中でも、みんな毎日笑顔で過ごしています。地域の方々との交流が多く、学校の行事や様々な活動のときにはいつもたくさんの方が来てくださいます。

閉校することが決まって、「閉校するまでに、友だちや先生、地域の方々と最高の思い出を作るためになにができるないか」と6年生で話し合いました。地域のよさを形に残したいと思い、地域の伝統的な踊りや豊田町名産の梨を収穫する様子をタイルアートにすることに決めました。そして、学校と地域の共同タイルアート制作がスタートしました。私は、豊田中小学校が閉校しても、いろいろな人が学校にタイルアートを観に来てくれるような作品になると嬉しいなと思いました。数え切れないくらいのタイルを並べるのはとても大変でしたが、友だちが「がんばろうね」と声をかけてくれたときは、



とてもうれしかったです。そして、50人以上の地域の方々が協力してくれました。みんなの思いがつまつたタイルアートが完成したときの達成感は、今も忘れられません。

タイルアート制作を通して、私はちは、たくさんの人にお世話になり、支えられているということに、改めて気づくことができました。豊田中小学校でたくさん的人に支えられた分、これからは、自分が人を支える立場になります。

振り返ると私は3年間、この久賀中学校から多くのことを学びました。小学生の頃の私は、責任感に欠け、人前に堂々と立てるようなリーダー的存在には程遠いものでした。しかし、今では様々な行事で生徒会長としての大重要な仕事を任されるようになりました。これは、1年生の時からよい仲間たちや先輩方、先生方に恵まれたからこそです。このように不可能を可能にしてくれた久賀中学校には心から感謝しています。

さて、私は、この学校の長い伝統の中で最後の卒業生となります。最後の1年となる今年度、新型コロナウイルス感染症によって様々なことが制限されました。例年開催していた行事もできなくなり、体育祭や文化祭などの大きな行事も規模を縮小しての開催となりました。そんな中でも、全校生徒が、生徒会スローガンである「互いに尊敬 繋がる輪」Always Show Respect♪を大切にして、色々なことを工夫し乗り越え、コロナ禍の中でも最後の1年にふさ

## 久賀中学校と歩んだ毎日

周防大島町立久賀中学校  
3年 岡田 崇史



最後の体育祭

わしい充実したものにすることができました。そして、私たちにとつて久賀中学校は色々な思い出をつくってくれたかけがえのない場所となりました。

これから、どんな困難が立ちはだかったとしても久賀中学校での3年間、仲間たちと共に全力で駆け抜けたことを思い出しながら乗り越えていきます。

ありがとう 久賀中学校！

# ありがとうわが学校



## 思い出は永遠に

周防大島町立東和中学校

3年 大谷 百花

3月をもつて、東和中学校は町内の3つの中学校と統合する。私たち3年生は最後の卒業生だ。閉校となってしまうと聞いたとき、卒業後母校を訪れたときには誰もいないことをひどく悲しく、寂しいと思った。

私たちちは、東和中学校が大好きだ。この気持ちは歴代の卒業生も変わらないだろう。9月に行われた運動会では、昭和50年代の運動会の時、約250人の全校生徒で撮影した、「東和中」の文字を再現させるため、卒業生や地域の方々に声をかけたところ、約200人の方々が集まり、全員の母校愛や、地域と学校との結びつきの強さを感じることができた。様々な行事に私たちが笑顔で楽しく取り組むことで、地域の方々や保護者のいな人文字を再現させることができた。この出来事から、卒業生の方々の母校愛や、地域と学校との結びつきの強さを感じることができた。様々な行事に私たちが笑顔で楽しく取り組むことで、地域の方々や保護者のいな人文字を再現させることができた。様々な行事に私たちが笑顔で楽しく取り組むことで、地域の方々や保護者のいな人文字を再現させることができた。様々な行事に私たちが笑顔で楽しく取り組むことで、地域の方々や保護者のいな人文字を再現させることができた。様々な行事に私たちが笑顔で楽しく取り組むことで、地域の方々や保護者のいな人文字を再現させることができた。

これから私たちは、一人ひとり別の道を歩む。もう東和中学校には誰もいなくなってしまったけれど、私たちが東和中学校で過ごした日々、思

い出は永遠に残り続ける。東和中学で過ごした日々は、これからも新しい生活に期待と不安でいっぱいの私たちの背を力強く押してくれるだろ。東和中学校がなくなることは寂しいが、最後の卒業生となることに誇りを持ち、東和中学校の歴史に恥じないよう、歩んでいきたい。

これまで学校生活を共にしてきた仲間たち、支えてくださった先生方、地域・保護者の方々に出会えてよかったです。出会い・思い出・笑顔をありがとうございました。東和中学校！



「東和中」昭和(上)から現在(下)へ

## 安下庄中学校～青春の宝箱～

周防大島町立安下庄中学校

3年 柏谷 桜

多くの人から愛されてきた安下庄中学校は、今年度で閉校します。私がそのことを知ったのは、入学して間もない頃でした。あまり実感がない頃でしたが、先輩や先生方が「寂しかったのですが、先輩や先生方が『寂しいねえ』とたくさんおっしゃっていました」ことを覚えていました。

3年生になり、安下庄中学校最後の学校行事を生徒会長として皆の先頭に立つて運営してきました。体育祭では、臨時休業が明け、当までの限られた期間の中で全校生徒が一丸となつて準備に励みました。私はダンスリーダーとして、地域の皆さんと一緒に楽しめるダンスパフォーマンスの実現を目指しました。初めは不安な気持ちもありましたが、仲間や先生方の励ましに背中を押され、リーダーとして一人ひとりに寄り添い、率先して楽しむ姿勢で練習に取り組みました。当日は、来てくださった皆さんの笑顔が輝き、最高のパフォーマンスを創り上げることができました。

文化祭では、皆さんを笑顔にするステージ発表や展示に挑戦しました。少人数だからこそ、学年関係なく意見を出し合うことができ、皆で話し合いを進めるうちに、仲間意識が強くなつていきました。一人が頑張ると影響を受けた周りの仲間も頑張ります。全員が全力でやりきることで、



みんなの笑顔が輝いた体育祭



おもいで

最後の文化祭では、仲間と自分の大きな成長を感じることができます。私はこの3年間で、安下庄中学校でしか味わうことのできない貴重な経験を数多くしてきました。先輩や先生方がおっしゃっていた安下庄中学校が閉校することへの「寂しさ」を、卒業を控えた今、実感しています。安下庄中学校でたくさんの中間と繋いだ心の糸は、これから先も、固く、強く、結ばれています。そこで過ごした私たちの青春は、一生忘れられない宝物の時間です。ありがとうございました。安中。

# キャリア・パスポートで自分のよさを伸ばし、夢を叶える



山口市立生雲小学校

校長 長岡

豊

## はじめに

人が生きていく上で、夢や志を持つことはとても大切です。生きていく源、エネルギーになります。本校は、自分によさを伸ばし、夢や志を育むキャリア教育を柱に様々な教育活動を展開しています。そして、キャリア教育を推進していく上で欠かせないのがキャリア・パスポートです。本紙面では限りがあるので、本校のキャリア・パスポートの取組の一部について紹介します。

## キャリア・パスポートの作成

令和2年4月からすべての小・中・高において、キャリア・パスポートを活用するよう文部科学省から指示がありました。私が、キャリア教育を行う上で、キャリア・パスポートが欠かせないと言える理由は、これまで子どもに指導し、自分自身も活用し、3年前から

しかし、キャリア・パスポートを活用することの意義やよさ、その効果は、なかなか認識されていないのが現状ではないのでしょうか。そこで本校はこれまで

**「キャリア・パスポートって何? (児童・生徒用)**

「キャリア・パスポート」について  
「キャリア・パスポート(キャリアアルバム)」について  
「キャリア・パスポート(キャリアアルバム)」のよさ  
3.入れるもの  
(1)よさや将来の夢が分かるシート「よさや夢シート」を表紙にする。  
(2)自分の夢や目標を記入する「自分の夢シート」を表紙にする。  
4.入れ方  
(1)はじめに「よさや夢シート」が見えるように入れる。  
(2)時系列(日付順)で入れる。  
(3)入れたものに日付や出典を書く。  
5.置き場所(キャリアアルバム)  
(1)すぐに取り出せる場所に置く。(いつでも入れて、いつでも振り返れる。  
(2)いつも、先生が見ることができるようになる。  
※ キャリア・パスポートは、先生にあずけておこう。

この「キャリア・パスポート(キャリアアルバム)」は、自分の夢や目標を見失さないよう自分自身の道筋を教えてくれるもの。また、夢を追ってみて、自分のよさや大切なことを教えてくれるものになります。

ため、この「キャリア・パスポート(キャリアアルバム)」は、もう一人の自分に取りかわながら、「自分を成長させていくもの」にしていきましょう!

表紙には、自分のよさや夢が分かることで、自分の将来のために欠かせない「宝物」になるようになります。キャリア・パスポートを活用する中で、自分のよさを発見し伸ばし、自分の将来のために価値あるものを残すことで、何のためにキャリア・パスポートを持つているか見失わないためです。

## 二 中に入れるもの

### 一 キャリア・パスポート活用のポイント

1.入れ方  
(1)はじめに「よさや夢シート」が見えるように入れる。  
(2)時系列(日付順)で入れる。  
(3)入れたものに日付や出典を書く。

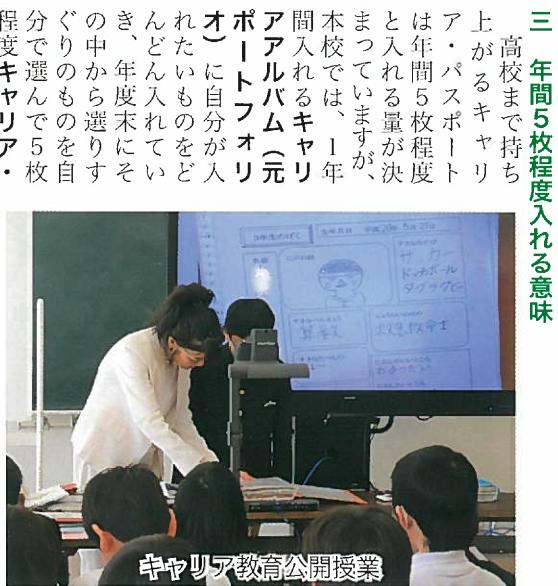
2.置き場所(キャリアアルバム)  
(1)すぐに取り出せる場所に置く。(いつでも入れて、いつでも振り返れる。  
(2)いつも、先生が見ることができるようになる。  
※ キャリア・パスポートは、先生にあずけておこう。

キャリア・パスポートマニュアルの一部

互いに見せ合う場を年間に2、3回設定することをお薦めします。一人ひとり1年間入れるキャリアアルバムをグループや全員に見せながら説明する時間をとります。見せ合うことで、互いの思いを知り、認め合うことができます。説明後にプラスの感想を付箋に書いて渡すことで、より自己肯定感、自尊感情の高まる活動となります。また、互いにキャリアアルバム内容充実のためのよい刺激にもなります。

## おわりに

実践を積み重ね、公開授業や講師を招聘しての小中合同研修等も行い、4年目にしてようやく本校や阿東中学校区で、小中一貫した系統的なキャリア・パスポートの指導のよさが見えてきました。自己肯定感や自尊感情を高め、自己成長する人へと導くことができるのに「かけがえのないもの」となるように、今後も本校を応援する学校をを目指し、保護者や地域と一緒にいたいと思います。



三 年間5枚程度入れる意味

高校まで持つ上がるキャリア・パスポートは年間5枚程度まっていますが、本校では、1年間入れるキャリア・パスポート(元アーリア・パスポート)に自分が入ったいものをどんどん入れていき、年度末にその中から選りすぐりのものを自分で選んで5枚にまとめておこなう。この「キャリア・パスポートマニュアル(指導者用と児童生徒用)」を作成しました。指導する教員が、キャリア・パスポートの意義やよさを理解して、自信をもつて指導できるようにするため、また、子どもにとって自己成長を促すキャリア・パスポートが自分の将来のために欠かせないためです。

度、キャリア・パスポート(凝縮ポートフォリオ)に移っています。子どもが悩みながら選ぶその作業がとても重要です。自分を選んで5枚にまとめておこなう。この「キャリア・パスポートマニュアル(元アーリア・パスポート)」は、自分の夢や目標を見失さないよう自分自身の道筋を教えてくれるもの。また、夢を追ってみて、自分のよさや大切なことを教えてくれるものになります。

ため、この「キャリア・パスポート(キャリアアルバム)」は、もう一人の自分に取りかわながら、「自分を成長させていくもの」にしていきましょう!

# 地域活性化活動助成事業

## みんなの笑顔が輝く「余田っ子米」だより



柳井市立余田小学校  
校長 廣池 康子

柳井市余田地域は、柳井の米処の一つである。整備された圃場が、季節ごとにとても美しい。「余田を誇り、学び合い生き抜く児童の育成」を学校教育目標に掲げる本校は、地域を学びの場とし、地域の方に様々なことを教えていただいている。米作りも長く続く体験活動で、コロナ休業明けの6月、5・6年生が、今年も餅米の田植えに挑戦させていただけたことになった。

6年生は2度目の田植え体験である。慣れた手つきで植えていく。5年生も負けじとがんばっていた。「せえの、よいしょ」という地域の方の掛け声とともに、友達と顔を見合わせ動きを揃えて植える微笑ましい光景に、余田地域や子どもたちの仲の良さを誇らしく感じたものだ。地域の方、子どもたち、そして一緒に田植えをする先生たちの笑顔の印象的だったこと。秋の稲刈り然り。

人々の晴れ晴れとした顔は、「よさを生かしたのしくチャレンジする」という余田小のスローガンを体現していた。

11月には「余田っ子発表会」を開催した。豊作への感謝を捧げる獅子舞を、4年生が横笛を吹いてダイナミックに舞い踊り、各学年が地域について学習したことなどを発表したり、活動でお世話になった方を招待して感謝を伝えたりすることができた。

コロナ禍により、1月のどんど焼きでは計画していた餅つきはできなかった。その代わりに、できた餅米を配り、6年生がレシピのアイデアを発信するなど、工夫した活動が好評を博した。

こうした体験は意義深いが、活動費は限られているのが実情である。山口県教育会の助成事業のご支援は大変有り難く、チラシ作りやふれあいの場づくりのために、様々な活用させていただいた。この場を借りて心よりの感謝を申し上げたい。

地域に元気をもらい、地域をまた元気にする。余田小学校と余田地域は、その好循環で満ちあふれている。



## 大人にあこがれる子どもを育てる



周南市立須磨小学校  
校長 坂井 竹俊

須磨小学校は全校児童9名。学校のある周南市須金地区の主な産業は梨、ぶどうの生産。五感を働かせ自然と対話し、手と足を使ってやるべき時にやるべきことを確実にやる。そんなことを子どもたちは日常の生活や農園での作業体験から学びます。ある園主の言葉です。「美味しい梨、ぶどうを実らせるには、冬に土壤づくり、春には剪定、新芽の頃は…。特に難しいのは枝の剪定じゃ。日当たりと地下水の流れを調べ、栄養を吸収できるよう枝を見極めてどの枝を生かし、どの枝を落とすかが味の良い梨、ぶどうを作るコツなんじゃ。教育も同じじゃろうが。子どもの良いところは伸ばし、悪いところはきちんとしつけるべきなのに、あれこれ口うるさく干渉して、型にはめた盆栽人間にしたり、逆に、個性とか自主性の尊重とか言って、伸び放題の雑木人間にしてしまう」。日焼けした赤い顔。目尻に刻まれた

ホームページQRコード



深いしわ。節くれ立った太い指。この老園主のこれまでの営みを言葉以上に物語っているようです。

須金は子どものすぐ側に親（大人）の働く姿があります。その姿にあこがれを抱く子どもたちです。「大きくなったらお父さんの仕事をやってみたい。だってお父さんが楽しそうに仕事しているから」。突然やつてきたテレビ局のレポーターに届託なく返す4年生。また、「ぶどう農園で働く」という将来の夢を粘土で表現した5年生。それは、働く父親をよく観察していかなければ決してつくることのできない作品でした。文化祭で展示されていたその作品を無言で見つめる父親の姿がありました。

学校での学びが家庭・地域での学びと一体となって須金の子どもたちはたくましく育っています。

この9名のために、その何倍の方が関わってくださっていることでしょう。今朝も雪の降る中、登校の見守り。決まって10分前にはスタンバイ。子どもたちが学校前の横断歩道を渡るのは10秒。車が通ることは…ほとんどありません。「きょうも寒いぞ！ いってらっしゃい」。



将来の夢「ぶどう農園で働く」(5年生)